

いつも大変お世話になり、ありがとうございます。

先月21日に、新しい総理大臣を決める首班指名選挙が行われました。誰に投票すべきか、私が所属する「有志の会」でも意見が分かれてましたが、一定の理解を得たうえで、私は一時共同会派であった3人と一緒に高市さんに1票を投じました。以下、その理由について、ご報告申し上げます。

今、直近の衆・参の選挙の結果、加えて公明党が連立を離脱したことにより、国会での自民党の議席数は大幅に過半数割れをしています。その一方で、世界情勢においては中国、北朝鮮、ロシアが連携する中、トランプ大統領が「米国第一主義」の路線を取っています。また国内では、物価高、格差の問題に加え、経済成長が低迷しています。

こうした中で、政治を安定させて、一刻も早く国政を前に進めることが極めて重要だと考えています。

ここで政権が弱い基盤のまま走り出し、野党の要望に振り回されるようでは、力強い指導力が発揮できません。すでに昨年末から、国会は「船頭多くして船山に登る」という状態になっています。

維新が閣外協力をして、過半数にまで2票足りないと言われる中、以上の考え方から、今回の首班指名選挙では高市さんに投票しました。

もちろん、高市さんの考えに全て賛同してるわけではありません。しかし、例えば、私が以前から国会で取り組んできた外国人の土地取得問題については、私と高市さんは

考えが非常に近い部分もあります。先日の所信表明演説でも、この問題について高市総理は言及しています。

さらに、土地取得の問題だけではなく、去年から日本政府は事実上の移民政策を進めています。決して外国人労働者を入れることそのものに反対はしませんが、他の移民政策を取っている国々と同様の規制をかけることは当然だと考えます。例えば、外国人労働者を受け入れる際には、本国での犯罪履歴の提出を義務付けるなどの対策はどう考えても講じるべきです。ところが我が国は、そのような対策は整備していません。**国際標準に則った移民政策というものを実現することについても、高市総理と同じ考えを持っています。**

逆に、高市政権がこうした政策を実施しなければ、より極端な主張で国民の心を煽るような勢力が頭をもたげる恐れがあります。世界の一部の国のように、「敵」と「味方」を作り上げるような政治が行われると、国論が分裂し、ぎすぎすした社会になってしまいます。

その意味では、今は日本の政治にとって誠に重要な局面に立っているのだと考えています。

以上、この度の首班指名選挙について説明申し上げます。当面は、これまで所属していた「有志の会」に残って、是々非々で国会の法案審議や予算審議に対応していきます。これは、今までと同じ私の政治姿勢です。

今後については、京都そして日本のためにどのような立ち位置が最も皆様の声を届けていけるのか、ということを検討しながら、皆様とともに歩んでまいります。引き続き、よろしくお願い申し上げます。